

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873900702
法人名	有限会社 別当
事業所名	グループホーム コスモス
所在地	愛媛県宇和島市三間町黒川3 8 5 - 1
自己評価作成日	平成26年9月15日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年11月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

それぞれの利用者が、その能力に応じて自立できるよう、職員が利用者の立場に立って支援し、さらに、地域の自治会等との交流を図りながら事業を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所では、「自立を促す」取り組みとして、利用者個々の「できることを行ってもらい」「できることを増やす」ことに向けた計画作成に努めておられる。トリコ用紙に1ヶ月の表を作り廊下に貼って、利用者個々の名前と「歩行練習」「体操」等、それぞれが行う運動を記し、行ったらしるしを付けるようにされていた。調査訪問時、「毎日5000歩あるいてダイエットしているのよ」と廊下を何度も往復している方が見られた。又、車いすを自走して行き来している方もあった。</p> <p>事業所では、夜間時もトイレで排泄できるよう支援されており、利用者によっては職員が時間をみてトイレに誘導し支援するケースもある。便失禁がみられる方に、「朝食後は必ずトイレに座る」支援を重ねてトイレで排便できるようになったケースがある。</p> <p>ユニット間をつなぐ廊下は、利用者が歩行練習したり、職員が食材や鍋、食事を運ぶ等して往来が多く、その時々声をかけ合っコミュニケーションを図っておられる。入居前に入院していた病院で一緒だった方同士、共通の話題があり、お話ができるような場面を作っておられる。おはじきやかるた等、利用者に懐かしいような遊び等で楽しむ機会も作っており、熱中するような方もあった。</p>
--

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム コスモス

(ユニット名) こでまり棟

記入者(管理者)

氏名 入川 一仁

評価完了日 26年 9月 15日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 管理者及び職員は、地域と密着した介護理念を理解し、共 有して日々の実践に繋げている。	
			(外部評価) 平成23年に事業所の理念を見直されて、「自立を促し 笑顔 で接し 地域と暮らす」と掲げておられる。今年9月には、管 理者の交代があり、管理者は、職員に、「できないと等と決め つけない」ことを話し、利用者がご自分の足で、立ったり歩い たりできるような支援を目指して取り組まれている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価) 事業所は地域の自治会に加入し、その行事等には必ず参 加している。併せて、事業所の主催する行事には自治会を 通じて住民の参加を仰いでいる。また、地元小学校とも定期 的に交流を図り、運動会や学習発表会への参加、児童によ る事業所への訪問交流も行われている。	
			(外部評価) 事業所は、「地域の方との交わりを大切にしたい」と考えてお られ、自治会主催のいも炊き会等には、利用者も参加でき るよう支援されている。三間地区の文化祭には、利用者職員 で色紙を使ってコスモスやチューリップの図柄を描いた作品 を出展された。自治会長は、時々、回覧する資料等のコピー のため事業所に来られており、職員がお手伝いしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価) 地域の会合や運営推進会議等を通じて、介護の現場での 経験と実践、認知症に対する理解と支援を図っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 介護に関する法令や技術、防災・防火等を議題として開催し、可能な限り多数の職員が参加し、学習することで事業所としての質の向上目指している。	
			(外部評価) 会議は、敷地内にある「別館かすみ棟」で開催されており、事業所から利用者の状況や活動を報告して、その後、「感染予防対策について」市の保健所の方から講話してもらったり、「心肺蘇生とAEDの取扱について」消防署の協力を得て講習会を行う等、勉強会を行っておられる。会議には、自治会長や民生委員、地域の方やご家族等、合わせて20数名が参加されている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 常にコンプライアンスの順守に努め、介護業務上での疑念が生じた場合には、行政の担当部局に意見と協力を仰ぎ、適切な介護サービスを実践している。	
			(外部評価) 8月の運営推進会議時には、市の担当者の方から、「市のオレンジプラン」について説明していただいた。介護相談員を受け入れており、相談員の方は利用者とお話されている。今年3月事業所は、共用型デイサービスの指定を受け、利用者が複数名通って来られている。調査訪問時には、1名の方が通って来ており、他利用者と一緒に廊下で歩行練習をされていた。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 利用者の意向を最大限尊重し、外出の要望があれば職員が同行しており、行動の制限や拘束は行っていない。また、全職員が「指定基準における禁止の対象となる行為」について把握している。	
			(外部評価) 玄関の戸は、高いところにある装置に番号を入力して解錠するシステムになっている。調査訪問時の午後、共用型のデイを利用する方が荷物を提げ、玄関まで出て来られた。他利用者が「帰る言よよ」と職員を呼び、職員は利用者へ帰る時間を伝えて居間で過ごせるよう誘導されていた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)	
			管理者及び職員は、身体的虐待及び言葉による虐待が見過ごされることがないように、会議やミーティングを通じて、常に注意を払い、防止に努めている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)	
			管理者及び職員は、権利擁護に関する制度の内容について、常に学び理解しようと努力している。特に、成年後見人制度についての必要性と活用について周知徹底している。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)	
			契約の締結・解除の時点で十分な説明を行い、納得していただいている。改定の際には運営推進会議や家族総会などに提案し、了解を得ている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)	
			利用者家族へのアンケートや、運営推進会議・家族総会等での決定事項等を、運営に反映している。また、通常においても、利用料の支払い時の個別の相談、電話による意見や要望も、随時受け付けている。	
			(外部評価)	年2回「家族会」を行っており、5家族ほどが参加されている。6月の会の折には、ご家族に緊急時の連絡先を教えてもらったり、「契約内容の精査を行った結果、おむつ代が減額となること」等について、ご家族の了解を得られた。又、欠席したご家族には、後日個別に電話連絡して了解を得られた。9月に事業所で行った「観月いも炊きの会」時、ご家族は8名ほどの参加があった。ご家族から事業所に対して要望や意見等は、あまり出されないようで、管理者や職員は、ご家族は「預けているから言いにくいのではないか」「職員に気を使っているのではないか」と感じておられる。さらに、ご家族の中には、利用者ご本人と距離を取る方や足遠い方も複数ある。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月1日に開催する職員会議及び随時行う打合せ等により、介護技術や労働環境その他についての意見や提案をくみ上げ、運営に反映している。	
			(外部評価) 職員全員参加で毎月職員会議を行っており、業務やケアについて話し合われている。毎月発行する「家族便り」は、「ご家族にグループホームでの利用者の様子を知ってもらいたい」と、個別に作りご家族へ送付されている。便りには、管理者が社会問題やご自分の考えを書き、又、個々の担当職員が、利用者の体重の増減や健康状態、日頃の暮らしの様子を書き、写真を添え作成されている。管理者は、「職員教育に力を入れていきたい」と考えておられ、今後、職員が向上心を持って取り組めるよう、意欲等を視る自己評価の仕組みを作りたいと話しておられた。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は、常に管理者や個々の職員の勤務状況の把握に努め、それぞれの努力や能力に応じて、向上心を持って働くことができるよう努めている。	
			(外部評価)	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 各種団体主催の研修や講習への参加、施設へ講師を招いての勉強会等により、機会をとらえて介護スキルの向上を目指している。	
			(外部評価)	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム連絡協議会や福祉施設交流会等に参加し、交流を深め情報交換に努めサービスの向上を図っている。	
			(外部評価)	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) サービスの開始に先立ち、利用者が安心できる環境で健康で暮らすことができるよう、利用者の意見や要望を聞き、信頼関係の構築に努めている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	(自己評価)	
			<p>サービスの開始に先立ち、家族の要望に最大限配慮し、利用者の意向と施設の対応について納得されるまで説明し、信頼関係の構築に努めている。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	(自己評価)	
			<p>サービスの開始に先立ち、家族構成、生活環境、職歴や病歴等の情報、家族の要望を把握し、必要としている支援を見極めた上で支援している。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	(自己評価)	
			<p>掃除や洗濯、食事の準備や片づけ等、利用者と職員が協力し、個々の能力に応じた作業をすることで、自立と共生を目指している。</p>	
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	(自己評価)	
			<p>家族との絆を常に念頭に置き、利用者と家族の触れ合うことのできる機会を出来るだけ設け、双方の意見や要望の実現に努めている。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	(自己評価)	
			<p>サービス開始に先立ち、利用者の生活歴や家庭環境を詳細に把握し、親しく交流のある方々との連絡を促し、訪問や面談の機会を作ることに努めている。また、新たに近隣の自治会などとの交流を通じ、馴染みの場や人ができるよう支援している。</p>	
			(外部評価)	<p>ユニット間をつなぐ廊下は、利用者が歩行練習したり、職員が食材や鍋、食事を運ぶ等して往来が多く、その時々声をかけ合ってコミュニケーションを図っておられる。入居前に入院していた病院で一緒だった方同士、共通の話題があり、お話ができるような場面を作っておられる。おはじきやかかるた等、利用者には懐かしいような遊び等で楽しむ機会も作っており、熱中するような方もあるようだ。</p>

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 個々の利用者の性格や嗜好を把握し、孤立することのないよう支えながら、充実した共同生活を送ることができるような環境作りに努めている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約が終了し、他施設や医療施設に移られた場合であっても、関係機関や家族等を通じて情報を収集し、必要に応じ相談や支援に努めている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者本位のケアをするため、個々の利用者への理解が必要であることを職員間で共有し、希望や意向のくみ取りが困難な利用者であっても、表情や態度などからそれを把握するよう努めている。 (外部評価) 現在、利用者の情報をまとめるツールとしては、利用者が他施設に移行する場合の情報提供表のみとなっている。利用者によっては、事情等もあって、生活歴等はご家族も把握していないことが多く、これまでのことを知ることに難しさがあるようだ。利用者は、外出や過ごし方、入浴等、職員からの誘いを断ることはあまりないが、利用者から希望を言われることはほとんどないようだ。現在、管理者は、日勤や早出、夜勤勤務職員それぞれの出勤時に、「利用者個々に挨拶して声をかけることで、コミュニケーションを図ろう」と職員に話しておられる。	利用者主体の生活を支援していくためにも、日々の生活の中で利用者が選んだり決めたりできるような場面を積極的に作り、個々の好き嫌いや習慣等、その人らしさを探って情報を蓄積していかれてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) サービス開始に先立ち、利用者の生活歴、職歴、住環境、他施設の利用歴などの情報の把握に努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 職員会議やミーティング、日々の申し送り等により、一人ひとりの状況の把握に努めるとともに、協議した結果をケアプランに生かしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人にとってのより良い暮らしのための実現の為、本人、家族、職員、関係各機関が密接に連携し話し合うことで、課題とケアのあり方について現状に即した介護計画を作成している。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>9月から全職員が全利用者のケアについて考えるような取り組みを始めておられる。介護計画作成時の話し合いは、できるだけ利用者も同席できるように取り組まれているが、「何もわからないので言うことはありません」と言われることが多いようだ。事業所では、「自立を促す」取り組みとして、利用者個々の「できることを行ってもらう」「できることを増やす」ことに向けた計画作成に努めておられる。トリノコ用紙に1ヶ月の表を作り廊下に貼って、利用者個々の名前と「歩行練習」「体操」等、それぞれが行う運動を記し、行ったらしるしを付けるようにされていた。調査訪問時、「毎日5000歩あるいてダイエットしているのよ」と廊下を何度も往復している方が見られた。又、車いすを自走して行き来している方もあった。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>個々の利用者毎に日々の出来事を詳細に記録し、ケアの実践とその結果、工夫したこと等の情報を共有し、利用者にとってより良い支援となるよう、常に介護計画の見直しを行っている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人の状態の変化、家族の事情など個々のニーズに応じ、前例や既定概念等に捉われないよう、臨機応変な支援やサービスに努めている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>地域の自治会活動や祭礼などに参加し、四季折々の自然や催しの中で、他者と触れ合い自立を図り豊かな暮らしを送ることができるよう支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人及び家族の希望を尊重し、同意を得られたかかりつけ医との協力関係を築き、さらに、必要に応じ総合病院との連携もとりながら、本人にとって常に適切な医療が受けられるよう支援している。	
			(外部評価) 利用者が風邪等引いた時には、協力医に往診に来てもらえるよう、連絡して支援されている。現在、利用者個々の薬が無くなる時期をみて往診をしてもらっており、中には、ご家族が付き添って以前からのかかりつけ医を受診する方もある。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 介護職員が、日常の支援の中でとらえた情報や気づきや疑問などを、随時看護職員に伝え、個々の利用者が適切な受診や看護を受けることができるよう支援している。	
			(外部評価)	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 常に医療機関との連携をとる事に努め、利用者が診療を受けたり、入院が必要となった場合に、適切な治療により速やかに施設に帰ることができるよう努めている。	
			(外部評価)	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 日常の利用者家族との交流をはじめ、家族会議や運営推進会議等を通じ、体調急変時の対応や状態が重度化した場合の事業所の方針について逐次説明しており、事業所でできることとできないことを理解してもらうよう努めている。	
			(外部評価) 入居説明時、利用者、ご家族には「事業所で看取りはできないので、いざという時には救急車を呼ぶことになる」ことを話しておられる。管理者は、「重度化した利用者が多くなり、職員が身体的なケアにかかわる時間が増えている」ことを感じておられた。 管理者は、ゆくゆくは事業所で看取り支援ができるよう、取り組みをすすめたいと話しておられた。職員、ご家族、医療関係者等とも話し合いを重ねながら、利用者の気持ちを大切にしながら支援に取り組めるような体制を作っていくことを目指している。職員は、「経験がないことでの不安」を感じている方もいる。医療機関等の協力も得ながら、ご家族等と一緒に勉強するような機会を作ってはどうだろうか。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)	
			救命救急訓練や防火・防災訓練を定期的開催し、すべての職員が、万一の事態の急処置や初期対応に備えている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)	
			運営推進会議や定例会議において、地域の自治会や消防団などと、緊密に連携し協力関係を構築し、万一の際の避難の手順や地域との協力体制についても周知している。	
			(外部評価)	
年2回避難訓練を行っており、夕食準備中の火災を想定して行っておられる。避難は、玄関前の広場まで出ることになっている。消防署の協力を得て消火器の使い方を体験することもある。伊方原発事故発生時には、西予市のグループホームを受け入れることになっており、今後は、事業所同士で交流するような機会も作ってはどうだろうか。事務所と廊下には数個ヘルメットが掛けてあった。	山間部に所在する事業所でもあり、自然災害時に備えた避難訓練や地域との連携等にも力を入れていかれてほしい。又、夜間想定避難訓練等も重ねて、職員個々のスキルを高められるよう、取り組みをすすめていかれてほしい、			
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)	
			利用者の尊厳に配慮し、人格とプライバシーを常に尊重することを念頭に、声掛けや誘導を実行している。	
			(外部評価)	
			事業所では、「自立を促す」取り組みに力を入れておられ、できるだけご自分の力を使って立つ、歩くことができるような支援に努めておられる。職員にきつい言葉で言うことがある利用者があり、職員でその理由を考えて、「一方的に言わない」よう対応を申し合わされた。声をかけ過ぎると、「やかましい」という方があり、職員は利用者の様子等も見ながら言葉をかけるよう気を付けておられる。職員の利用者への言葉遣いや対応について、管理者は、さらなるレベルアップの必要性を感じておられる。事業所で気付いたことはケア改善への最大の起点であり、この機会に職員みなで気付きを出し合い、ケアの質向上に向けた具体的な取り組みをすすめてほしい。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)	
			利用者が自主的に意志を表現し、可能な限り自己決定を優先し判断し実行できるよう配慮している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者一人一人の能力や生活のリズムを優先し、それぞ れの希望に沿った支援を行っている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	(自己評価) 女性の利用者が多く、その人らしいおしゃれや身だしな みができるように支援している。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 介護度の進行の程度と個々の能力に応じ、職員と利用者 が可能な限り協力し、地域の農家からの旬の食材の提供も 受けながら食事の準備や片づけを行っている。 (外部評価) 職員がメニューを決めて食事作りをされている。利用者か らは、食事の希望はあまり出ないようだ。毎日、2ユニットの職 員同士で食事作りの役割分担を決めており、でき上がった 料理を別ユニットまで運ぶようになっている。調査訪問時 には、豆腐屋さんが配達に来ていた。又、玄関前の畑では葉 物野菜を収穫されていた。食事に時間のかかる方は、他 の方より先に食事を始めておられた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 旬の新鮮な野菜を中心とした献立を基に、利用者の健康状 態に配慮した食事と、10時と3時の水分補給により必要な水 分を着実に摂ることができるよう支援している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 毎食後のケアは当然として、個々の利用者毎の口腔の状態 に常に留意し、必要に応じ歯科医院の受診や往診を受けて いる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 介護度の重度化した利用者であっても、毎食後、トイレに誘導し排便の習慣をつけることができるよう支援している。	
			(外部評価) 事業所では、夜間時もトイレで排泄できるよう支援されており、利用者によっては職員が時間をみてトイレに誘導し支援するケースもある。便失禁がみられる方に、「朝食後は必ずトイレに座る」支援を重ねてトイレで排便できるようになったケースがある。昼夜問わず放尿が見られる利用者には、スリッパに鈴を付けて、利用者が行動する時には職員が見守るようにされていた。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 野菜中心の食事と、ラジオ体操や歩行運動の実施により、それぞれの利用者に応じた対応を行っている。それでも長期の便秘の際には、やむを得ず主治医の処方によりマグミット錠等を服用している。	
			(外部評価) 本人の希望に沿って、その判断を最優先に、身体状況に応じて入浴する事が楽しみであるよう支援している。入浴が苦手な利用者に対しても、その必要性を根気よく説明し納得されたうえで実施している。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(外部評価) 午後2時～3時半くらいの間で、利用者個々に週2～3回入浴できるように支援されている。入浴を嫌がる方には、時間をずらす等してタイミングを見ながら誘って支援されている。利用者によっては「浴槽に入ることが怖い」と言う方もあり、シャワーのみ支援するケースもある。業務上、男性職員が女性利用者を介助するケースがあるが、職員は利用者にも業務の事情を説明して分かってもらい支援している。	
			(自己評価) 入所前の生活リズムは尊重するが、健康的な暮らしのために改めるべきことは改め、適切な睡眠と休息が精神的落ち着きをもたらす、安心して生活できるよう支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 入所前の生活リズムは尊重するが、健康的な暮らしのために改めるべきことは改め、適切な睡眠と休息が精神的落ち着きをもたらす、安心して生活できるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個々の利用者が服用している薬の効能や副作用、用法について、主治医の処方箋の内容を把握し、疑義が生じた場合は医療機関に指示を仰いでいる。また、常に薬剤に関連する情報収集に努め、利用者毎の症状の変化に対応できるよう図っている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人一人の利用者の個性や嗜好を把握し、その人の能力に合った生活していくうえでの役割を持ってもらい、喜びや達成感が得られ気分転換が図ることができるよう支援している。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 酷暑や厳寒、荒天時を除いて、外出の機会を設けるよう努めている。車酔い等、体調面での不安もあるため近隣の公園や施設に限られているが、できるだけ四季の移ろいを感じられるよう、利用者の意向を聞きながら支援している。	事業所理念「地域と暮らす」の実践に向けて、利用者個々と地域とのつながりを探りながら、外出支援につなげてみてはどうだろうか。懐かしい店や人、場所等を探りながら支援に工夫されてほしい。
			(外部評価) 職員が利用者へ外出先を提案して誘っており、春にはお花見に出かけたり、ドライブしたり、三間町内にある四国霊場をお参りされている。出かけることを拒む方も、外出するととても喜ばれるようだ。現在、「外出がお好きな方への支援に偏ってしまう」ことを課題に感じておられた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者本人で管理が不可能である場合を除いて、本人の意思を尊重し、買い物や外食するなど楽しみと生きがいに繋がるよう支援している。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者家族や友人、知人など、本人の希望に応じて電話の取り次ぎや手紙のやり取りを支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) すべての共有空間において、機能的・衛生的に、利用者はもちろん職員・来訪者が心地よく過ごすことができるよう、生活感や季節感を採り入れる工夫をしている。	
			(外部評価) 玄関先の縁台で、日向ぼっこしたり、玄関の前にある菜園を手入れする職員の様子を眺めながら過ごすようなこともある。利用者と職員でプランターにパンジーを植え、玄関先に飾っておられた。居間と段差なくつながっている畳の間があり、ソファとテレビが設置してあり、お好きな時代劇を見ている方があった。事業所は、来年で開設10年を迎える。これを機会にして、備品の手入れや浴室等の掃除、トイレのにおい等、利用者やご家族の立場に立ち、使い心地等を点検されてみてはどうだろうか。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 食堂の椅子や居間のソファの位置に配慮し、利用者同士の個性や相性に応じ、快適に過ごすことができるよう工夫している。	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室のタンス以外のレイアウトは自由であり、利用者個人の思い出の写真や絵等を思い思いに掲示している。共用の居間や食堂、廊下等には、利用者が落ち着いて過ごすことができるよう工夫している。	
			(外部評価) 利用者は日中、ベッドで休む以外は、共有スペースで過ごすことが多い。利用者が落ち着かない様子が見られた時には、職員は、居室でゆっくりお話を聴く時間を作る等されている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者それぞれの能力に応じ、それを把握し、利用者にとって適切な機能の維持や運動・娯楽等を通じて、安全で自立した生活が送れることができるよう支援している。	